

平成29年度  
福岡市総合計画審議会総会  
会議録

日時 平成29年8月10日(木) 13時30分

場所 エルガーラホール7階 中ホール

出席者（五十音順、敬称略）

石堂 高大	池内比呂子	小川 全夫
小山 英嗣（代理出席）	山田 信吾	定村 俊満
調 崇史	田中しんすけ	谷口 初美
津田信太郎	中芝 督人	中山 士朗
松永マツエ	松野 隆	水木 祐一
三角公仁隆	安浦 寛人	綿貫 英彦

平成 29 年 度  
福岡市 総合計画 審議会 総会  
〔平成29年 8月10日（木）〕

開 会

1 開会

○事務局（鈴木） 皆様こんにちは。ただいまから平成29年度福岡市総合計画審議会を始めさせていただきます。私は、事務局の総務企画局企画調整部長の鈴木でございます。よろしく願いいたします。

まず、本日は報道関係者、傍聴者がいらっしゃいます。報道関係者の皆様にご覧いただけます。会議の円滑な進行のため、撮影をなされる場合は、委員の皆様のご自由な発言、議論の妨げとならないよう、十分にご配慮をお願いいたします。また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししておりますが、傍聴席からの発言や拍手等はできません。注意事項を守っていただけない場合は退席していただくこととなりますので、ご協力をお願いいたします。

それではまず、会議の開催に当たりまして、副市長の貞刈よりご挨拶を申し上げます。

○貞刈副市長 皆さん、こんにちは。福岡市副市長の貞刈でございます。

本日は皆さん、大変お忙しい中、また暑い中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

まずは、今回の九州北部豪雨におきまして犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。福岡市といたしましては、一日も早い復旧復興に向け、引き続き尽力してまいりたいと思います。

さて、福岡市総合計画は、福岡市の全ての分野の施策の基本となる大変重要な計画でございます。総合計画を策定してから約4年が経過いたしました。この間、人口や観光客は増え続け、企業の立地も進み、市税収入は過去最高を更新いたしております。この成長の果実を生かし、子育て支援や教育環境の充実、超高齢社会の到来を見据えた持続可能な仕組みづくりなど、生活の質の向上に向けた取組みも着実に推進しているところでございます。

また、グローバル化や少子高齢化、AIやIoTをはじめとする技術革新などの進展や豪雨や地震といった大規模自然災害への広域的な対応など、状況の変化等に合わせたスピード感のある取組みも、ますますその重要性を増してきております。

このような中、総合計画に掲げる都市像や目標の実現に向けまして、PDCAサイクルを繰り返しながら、審議会において皆様からのご意見をいただくことにより、総合計

画を着実に推進し、九州・日本の成長を牽引する都市づくりの実現を図ってまいりたいと考えております。本日の審議会のご趣旨をご賢察いただき、皆様の忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 大変恐縮ではございますが、貞刈は公務の都合により、ここで退席させていただきます。

○貞刈副市長 どうぞよろしくお願いいたします。

〔副市長退室〕

○事務局（鈴木） では、まず本日お配りしております資料について確認をさせていただきます。非常に大量の資料をお配りさせていただいておりますので、まず資料の右肩につけております資料番号、手前の資料1、委員名簿から資料8までそろっていることをご確認いただければと思います。資料8までございましたら、補足資料が1と2と二つございます。そして、参考資料として基本計画や総合戦略など5冊お配りしております。審議の中で随時ご参照いただければと存じます。

なお、一番下にごございます政策推進プランにつきましては、今年6月に策定したものでございます。

資料が大変多くなっておりますが、全てお手元にごございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

なお、本日の資料につきましては、非常に多くなってございますので、郵送で後ほどお届けすることも可能となっております。詳しくは会議の最後にご案内させていただきます。

資料の確認については以上でございます。

## 2 委員紹介

○事務局（鈴木） 次に、審議会委員の皆様をご紹介させていただきたいと思っております。

お手元の資料1、平成29年度福岡市総合計画審議会委員名簿をご覧ください。この25名の皆様に、今月から2年間の任期でご就任いただいております。辞令書をお手元に置かせていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私のほうから、本日ご出席の委員の皆様を名簿順にご紹介させていただきます。

まず、連合福岡・福岡地域協議会副議長の石堂委員でございます。

○委員 よろしくお願ひします。

○事務局（鈴木） 続きまして、株式会社テノ.ホールディングス代表取締役社長の池内委員でございます。

○委員 池内でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（鈴木） 九州大学名誉教授の小川委員でございます。

○委員 小川全夫です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（鈴木） 福岡県企画・地域振興部長の小山委員でございますが、本日は所用により代理として、企画・地域振興部次長の山田様がお出席されております。

○委員（代理人） 山田でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（鈴木） NPO法人FUKUOKAデザインリーグ理事長の定村委員でございます。

○委員 定村でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（鈴木） 福岡市議会議員の調委員でございます。

○委員 調です。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（鈴木） 福岡市議会議員の田中委員でございます。

○委員 田中でございます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（鈴木） 九州大学医学研究院教授の谷口委員でございます。

○委員 谷口初美です。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（鈴木） 福岡市議会議員の津田委員でございます。

○委員 津田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 福岡商工会議所理事・事務局長の中芝委員でございます。

○委員 中芝でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 独立行政法人中小企業基盤整備機構九州本部経営支援部長の中山委員  
でございます。

○委員 中山でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 福岡市自治協議会等7区会長会代表の松永委員でございます。

○委員 松永でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 福岡市議会議員の松野委員でございます。

○委員 松野です。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 株式会社日本政策投資銀行九州支店企画調査課長の水木委員でござい  
ます。

○委員 水木です。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 福岡市議会議員の三角委員でございます。

○委員 三角でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 九州大学理事・副学長の安浦委員でございます。

○委員 安浦です。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 最後に、福岡市議会議員の綿貫委員でございます。

○委員 綿貫でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 会長、副会長選出

○事務局（鈴木） それでは、議事の初めに審議会の会長と副会長についてご選任いただきたいと思っております。

資料2、福岡市総合計画審議会規則第7条第2項の規定によりまして、会長及び副会長は委員の中から互選いただくことになっております。もし差し支えなければ、事務局のほうからご提案をさせていただきたいと存じますが、いかがでございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（鈴木） ありがとうございます。それでは、事務局の案といたしまして、会長は安浦委員に、副会長は小川委員に引き続きお願いしてはどうかと存じますが、いかがでございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（鈴木） ありがとうございます。それでは、福岡市総合計画審議会の会長は安浦委員に、副会長は小川委員にご就任いただきたいと存じます。

安浦委員、小川委員は、正面の会長、副会長席にお移りいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。しばらくお待ちください。

〔安浦会長、小川副会長、正副会長席へ移動〕

○事務局（鈴木） それでは、安浦会長、小川副会長からそれぞれご挨拶をいただきたいと存じます。

まず、安浦会長、お願いいたします。

○安浦会長 ただいま会長にご指名いただきました九州大学の安浦でございます。昨年までもこの仕事をやらせていただいております、引き続きよろしくお願い申し上げます。

この福岡市総合計画審議会は、福岡市がつくった総合計画の進行をチェックしていくことがミッションでございます。都市の成長、生活の質の向上、この二つを両輪として、福岡市は今、全国でも非常に活発に動いている都市となっていると見ておりますが、具体的に市政の中でいろいろな施策が打たれているものに対しまして、市民の皆様方、あるいは市議会議員の先生方のご意見も聞きながら、改善できるところは改善していくために、この委員会があると思っておりますので、ぜひ本日は皆様方の忌憚のないご意見をいただければと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○事務局（鈴木） ありがとうございます。では、小川副会長お願いいたします。

○小川副会長 ただいま安浦先生からお話がありましたように、この福岡市の総合計画は基本的に、都市発展・都市成長、それと市民の生活の質の向上の好循環を図ることが使命になっております。この間、福岡の都市発展という面での成長は著しく、皆さんに印象づけたと思いますが、これが市民の方々の生活の質の向上として、さらにまたそれがきっかけになって都市発展にと、そういう好循環にさらに拍車をかけるということでの計画の進行だと思っておりますので、皆さんからのご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（鈴木） ありがとうございます。

では、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。安浦会長、よろしくお願いいたします。

○安浦会長 それでは、ここからは私安浦が進行を務めさせていただきます。

#### 4 議題

○安浦会長 初めに、本日の会議の議題、運営等について事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局（鈴木） それでは、事務局から2点ご説明いたします。

まず、1点目でございます。

本日の審議会の議題につきましては、次第をお手元に配っておりますとおり、三つございまして、議題（1）平成28年度施策評価（案）について、議題（2）福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、議題（3）平成28年度地方創生関連交付金事業の実施状況についての三つでございます。

本日のこの議題は、福岡市総合計画審議会規則の第3条第2項の規定に基づく総合計画の推進に関する市からの報告でございまして、その報告事項に対しまして、委員の皆様にご協議、ご意見をいただくものでございます。

二つ目でございますが、本日いただいたご意見につきましては、その対応についての考え方をまとめまして、後日、施策評価の成案とあわせまして皆様にお送りさせていただきます。また、本日の資料や議事録と合わせて、市のホームページで公開することといたしております。



以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。何かご質問などございますか。よろしいでしょうか。

それでは、議題に入っていきたいと思います。

まず、議題の1から3まで内容がかなり重複もしておりますので、まず、事務局のほうからまとめてご説明をいただきまして、その後、皆様方からのご意見を頂戴する、こういう流れで進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

議題1の施策評価（案）につきましては、策定しましてから4年半がたっており、進捗上どういった課題が明らかになり、それにどう対応していくのか、また評価の内容が市民からわかりやすいものになっているかというような視点で、後ほどご意見をいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

また、議題2、3の福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び関連交付金事業につきましては、その実施、進捗状況について、事務局の報告に対してご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(1) 平成28年度施策評価（案）について

○安浦会長 それでは、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○事務局（野中） 総務企画局企画課長の野中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私のほうから、まず議題1の平成28年度施策評価（案）についてご説明をさせていただきます。

お手元の資料3、平成28年度施策評価（案）概要をご覧ください。

この施策評価でございますけれども、福岡市基本計画に掲げる51の施策につきまして、毎年、行政内部で評価案を作成し、審議会でご意見を伺いまして、基本計画に係る実施状況として9月に議会へ報告し、公表しているものでございます。

それでは、内容を説明させていただきます。

まず、1ページをお開きください。

最初に、評価基準でございます。成果指標、事業の進捗、社会情勢の変化、これらを踏まえまして、施策単位で総合的に評価を行い、結果を「順調」「概ね順調」「やや遅れている」「遅れている」の4段階であらわしております。

平成28年度の51施策の評価結果でございますが、「順調」が17、「概ね順調」が31、「やや遅れている」が3、「遅れている」はゼロという状況でございます。

資料の2ページをご覧ください。

本審議会におきまして、平成26年度施策評価の際に、対象を絞って議論すべきとのご意見をいただいたことを踏まえまして、特にご意見をいただきたい施策6つを選定し、ご意見を頂戴しております。

本日は、基本計画策定後の社会情勢の変化や動きなどに対応したものや、まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関するもの、達成状況が低い成果指標があるものから6施策を選定いたしまして、特にご意見をいただきたいと考えております。

それでは、3ページをお願いいたします。

施策1-3でございます。「一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり」に向け、健康づくりの支援や高齢者の社会参加の場の創出などに取り組んでおります。

下の4ページの3、事業の進捗状況をご覧ください。

一つ目の黒丸の、「こころとからだの健康づくり」につきまして、自主的かつ継続的な健康づくりの普及・推進のために、健康づくりチャレンジ事業としまして、ふくおか健康マイレージなどを実施しております。こちらへの参加者は増加してきている状況でございます。福岡市は、健康寿命が全国平均に比べて短く、これを延ばしていくことが課題であり、今後もICTの活用などによりまして、市民の健康づくりを支援してまいります。

また、自殺予防の取組み、医療体制の充実のほかに、三つ目の黒丸に挙げております「アクティブエイジングの推進」では、生涯現役社会づくりを目指しまして、シニアの創業・就業の支援の検討ですとか、後ほど地方創生関連交付金のところでもご説明をさせていただきますけれども、福岡市健康先進都市戦略を策定いたしまして、取組みに着手しております。今後も、高齢者が意欲的に社会参加できるよう、取組みをより一層推進してまいります。

上の3ページの成果指標のグラフをご覧ください。健康に生活している高齢者の割合を成果指標にしております。こちらが50.6%ということで、既に、最終目標にしている50%を超えている状況でございます。

以上、成果指標の状況、各方面において事業が順調に進捗していることから、評価を「順調」としております。

1枚めくっていただきまして、5ページをお願いします。

施策3-1、「災害に強いまちづくり」でございます。右上の施策事業の体系にございますように、大きくは防災・危機管理、地域防災、消防・救急、都市基盤整備の取組みがございます。

この資料では、昨年の熊本地震を踏まえた防災・危機管理体制の強化の取組みについてご説明をさせていただきます。

それでは、下の6ページ、3、事業の進捗状況をご覧ください。

まず、備蓄につきましては、公的備蓄といたしまして27万食分の食料や簡易トイレ、毛布などを確保するようにいたしました。今後は、家庭や職場における備蓄促進に向けてPRを進めてまいります。

次に、避難所につきましては、運営する職員を小学校や公民館ごとに指定しているところございまして、今後、高齢者などに配慮いたしました避難所運営の検討や、避難所の運営を支援する避難所サポートチーム・福岡の養成に取り組んでまいります。

また、救援物資の集配の拠点といたしまして、埋蔵文化財センター月隈収蔵庫を位置づけました。今後、物流事業者と受配送訓練を実施する予定でございます。

さらに、災害対策本部体制の機能強化を図りますとともに、受援・支援体制の検討を行いまして、今年度はその計画を策定してまいります。

上の5ページの成果指標のグラフをご覧ください。一番左の地域の防災対策への評価及び右の災害時要援護者情報が活用されている地域の割合、この二つの成果指標につきましては、中間目標値を超えております。真ん中の自主防災活動への参加率でございますが、中間目標には届いておりませんが、防災意識の高まりから増加してきている状況でございます。

以上、成果指標の達成状況、事業についても、状況に応じて必要な対応が行われ、順調に進んでいることから、評価を「順調」としております。

7ページをお開きください。

施策4-2、「循環型社会システムの構築」でございます。家庭ごみ、事業系ごみ、それぞれの状況に応じた取組みを行っております。

下の8ページ、事業の進捗の状況をご覧ください。

まず、家庭ごみでございますけれども、子ども会など地域集団回収が減少しておりますが、一方で単身世帯用マンションでの古紙回収を増やしたり、使用済み小型電子機器の回収を促進しております。雑紙や小型電子機器は、まだまだごみとして捨てられているものが多い状況でございます。今後も広報に努めてまいりたいと考えております。

事業系ごみにつきましては、古紙や食品廃棄物の資源化を促進するために、資源化施設の整備を支援するほか、飲食店での食べ残し削減に向けて取組みを続けております。

このような取組みによりまして、上の7ページの成果指標のうち、真ん中のリサイクル率につきましては、上昇している状況や、右の補完指標として挙げております、市民1人1日当たりの家庭ごみ処理量が減少してきているというところで、先ほどご説明したような取組みが、成果としてあらわれていると考えております。

しかしながら、左のグラフに示されておりますように、ごみの処理量は中間目標値と開きがある状況でございます。これにつきましては、居住人口や交流人口の増加、経済

状況の好転の影響もあるのではないかと考えております。さまざまな取り組みを行っているものの、減少目標にしているごみ処理量が初期値より増えている状況が4年間を通じて続いているということから、評価としては、「やや遅れている」としております。

9ページをお開きください。

施策5-3、「情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり」でございます。

下の10ページの事業の進捗状況からご説明させていただきます。数多くの取り組みがございます、その中から抜粋しております。

一つ目の黒丸、「おもてなしの向上」につきましては、外国人の受け入れ環境整備に向けまして、インバウンド対策セミナーを開催するなどといったことに取り組んでまいりました。今後も、民間企業と連携いたしまして、受け入れ体制の強化や観光産業の振興に取り組んでまいります。

また、二つ目の黒丸、「交通利便性や都心回遊性の向上」につきましても、市内横断的に事業の調整を行う体制をとっております。水上公園の再整備などの魅力づくりや、交通対策としまして、観光バスの駐車場の確保などの快適な移動に向けた取り組みを進めているところでございます。

一番下に「インバウンド観光客受入環境向上事業」とございますのは、こちらも地方創生関連交付金事業でございます。後ほど別途ご説明させていただきますけれども、博多織、博多人形といったものづくり体験プログラムの開発、博物館等の展示作品の多言語化や音声ガイドの作成などの取り組みを行ったところです。

上のページ、成果指標に戻っていただきまして、グラフをご覧ください。左の観光案内ボランティアの案内人数でございますけれども、こちらは大河ドラマの効果で急増した部分を除きますと、増加傾向にございます。このことから達成状況をBとしております。真ん中の観光情報サイト（よかなび）のアクセス数が初期値を下回っており、達成状況はCとなりますけれども、これはスマートフォンの普及に対応いたしまして、少ないページ間移動で目的の情報を得ていただけるよう、サイトを全面リニューアルいたしまして、利便性を向上させたことによるものでございます。補完指標として挙げておりますけれども、スマートフォンによる訪問数は増加しております。

成果指標の達成は、お示ししているような状況ではありますが、見込みを大きく超えて増大を続けるインバウンドやスマートフォンの急速な普及といった状況に対応しながら、おもてなし環境づくりを進めていることから、施策の進捗状況は「概ね順調」としてしております。

11ページをお願いいたします。

施策7-1、新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくりでございます。

下の12ページ、事業の進捗状況をご覧ください。黒丸のところ以下、記載をしておりますけれども、創業しやすい都市づくりに向けまして、国家戦略特区の規制緩和と市の施策をパッケージにいたしまして、スタートアップの支援を行っております。

スタートアップカフェをワンストップ支援の拠点といたしまして、これまで多くの相談やイベント等により、創業の裾野を拡大してまいりました。また、これまで市内に分散していたインキュベート施設を、旧大名小学校跡に集約いたしまして、今年4月には官民共働型のスタートアップ支援施設Fukuoka Growth Nextとしてオープンいたしまして、スタートアップの見える化、相互作用によるイノベーション創出、成長促進を図っております。

さらに一番下のポツですけれども、グローバル展開につなげていくために、国際的なイベントへの参加、海外スタートアップ拠点とのネットワークの構築、海外研修などを支援しております。

成果指標でございます。上の11ページをご覧ください。

成果指標は新設事業所数としておりまして、これは経済センサスによるものでございます。事業所数は大きく増加している状況でございます。これは、新設事業所数の定義が前回調査から変更されたことによるものでございまして、全国的にも同じ傾向でございますが、単純な比較が困難であり、補完指標として右のほうにスタートアップカフェ利用者の起業件数を挙げております。こちらのほうは、毎年増加している状況でございます。取組みの成果があらわれているものと考えております。

以上、指標の状況や事業の進捗状況から、施策の評価を「順調」としております。

13ページをお願いいたします。

最後に、若者や女性のチャレンジや活躍、子育て環境、教育といった、子ども・若者に関連する施策でございます。

子ども、若者は、都市の成長の源泉でございます。教育や子育て環境など生活の質の向上に向けた取組みの対象でもあり、事業も再掲がございます。今回、初の試みでございますけれども、関連する施策をパッケージで見えていただきまして、ご意見をいただければと考えております。

なお、施策の評価は、7-5を対象に行い、「概ね順調」としております。この施策7-5の成果指標でございます「企業における女性管理職比率」は10%と、中間目標値を超えております。もう一つの指標でございます「15歳から29歳の若者率の全国平均との差」は、初期値より小さくなっております。

なお、右に、参考といたしまして若者人口を記載しておりますので、ご参照ください。下の14ページには、施策7-5以外の子育て環境や教育に関する施策の指標を記載しております。

15ページをお開きください。

事業の進捗状況でございますけれども、三つの施策から抜粋して掲載をしております。職場体験学習や新しいことにチャレンジしていく意欲を育てるアントレプレナーシップ教育、子どもたちが中心となって運営をする「ミニふくおか」を実施しております。

また、女性の活躍を推進するために、下の16ページでございますけれども、企業における女性活躍の取組みを「見える化」するサイトの創設や各種講座を開催しております。各種講座の中でも、スタートアップ、起業を目指す女性向けの講座は参加者が非常に多いという状況でございます。

以上、施策評価概要の説明でございます。

## (2) 福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○事務局（野中） 続けて、議題（2）の福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況についてご説明をさせていただきます。

お手元の資料5をご覧ください。A3の横長の資料でございます。

この総合戦略でございますけれども、福岡市基本計画をもとに地方創生の観点から施策等を構成し直したものでございまして、2年前の本審議会でもご意見をいただきながら平成27年に策定し、総合計画と一体的に推進をしているものでございます。

総合戦略には三つの基本目標を掲げ、目標及び施策の成果指標は全て基本計画に掲げているものを再構成しているものでございます。

まず、一つ目の基本目標、オレンジの部分でございますけれども、「しごとを増やし、活力につながる人の流れをつくる」についてでございます。創業や企業誘致の推進、地域産業、観光・MICEの振興など、雇用を増やす人の社会増に資する施策事業に取り組んでおります。基本目標及び各施策の成果指標は、いずれも目標値に向け順調に進んでいる状況でございます。

2枚目をご覧ください。

中ほどの水色の部分、基本目標Ⅱでございます。こちらは、「働き方を見直し、安心して生み育てられる環境をつくる」を目標にしております。若者・子育て世代の支援により人の自然増に資する取組みを進めて、基本目標及び各施策の成果指標は、目標値に向け、ほぼ順調に進んでいる状況でございます。

3枚目をご覧ください。

グリーンの部分、基本目標Ⅲ「超高齢社会に対応した持続可能で質の高い都市をつくる」でございます。健康づくりやユニバーサル都市・福岡の推進、地域で安心して暮らせる取組みやコンパクトな都市づくりなどを進めておりまして、基本目標及び各施策の成果指標は、目標値に向けておおむね順調に進んでいる状況でございます。

以上で総合戦略の進捗状況についての説明を終わらせていただきます。

(3) 平成28年度地方創生関連交付金事業の実施状況について

○事務局（新穂） 総務企画局企画課長の新穂と申します。よろしくお願いいたします。

議題（3）の平成28年度地方創生関連交付金事業の実施状況についてご説明をさせていただきます。関係資料につきましては、お手元に配付しております資料6と7でございます。本日は資料6、A4横の資料でご説明をさせていただきます。

1ページをお願いいたします。

地方創生関連交付金事業とは、地方版総合戦略に基づく自治体の自主的・主体的な取り組みで、先導的な事業を交付金により支援するものであり、KPIの設定とPDCAサイクルを取り込み、従来の所管省庁ごとの縦割り事業を超えた取り組みを支援するものとなります。

また、地方創生関連交付金事業につきましては、設定したKPIの達成度について外部有識者による検証が求められており、本日は、赤の太線で囲みました二つの交付金の対象となります2ページに記載の平成28年度に実施した三つの事業について、実施状況をご報告させていただきます。

なお、1ページの左下のオレンジ色で示している部分になりますが、国の平成26年度補正予算に伴う地方創生先行型交付金対象事業につきましては、平成27年度に12事業を実施いたしまして、昨年度は書面にてご意見をいただいたところでございます。

では、3ページをお願いいたします。

①IOT拠点形成事業です。事業費は3,317万円余となります。

1、目的ですが、福岡市の強みである情報関連産業の集積を生かし、地場企業が取り組むIOT関連分野での製品開発や、事業者・大学等のネットワーク化を支援し、産学官金が一体となりIOT産業の拠点形成を目指すものとなります。

3、実施内容ですが、福岡市IOTコンソーシアムの設立や特区における特定実験試験局制度等を活用した試作開発等の支援などを行いました。

2、進捗状況になりますが、KPIとして設定いたしました二つの指標につきましては、達成率がともに100%を超えており、評価はaといたしております。

次に、4ページをご覧ください。

②インバウンド観光客受入環境向上事業です。事業費は4,178万円余です。

1、目的ですが、外国人観光客が急増し、大型MICEの開催が今後予定されている中、マナーや宿泊施設不足などの課題に対応するとともに、市全体でインバウンド需要を取り込むための環境整備に取り組むものです。

3、実施内容ですが、歴史・文化・自然など地域の観光資源を活用した体験プログラ

ムなどの開発や、はかた伝統工芸館などの展示作品等の解説の多言語化及び音声ガイドの作成などを行いました。

2、進捗状況ですが、二つの指標の達成率がともに100%を超えており、評価はaといたしております。

5ページをお願いいたします。

③アクティブシニアの生涯現役さきがけ事業です。事業費は1億439万円です。

1、目的ですが、健康寿命の延伸を図るとともに、保健・福祉・医療分野の新たなサービスを創出する仕組みを構築し、超高齢社会に対応した活力ある都市づくりを進めるものです。

3、実施内容ですが、健康先進都市づくりに関する構想策定や、地域との協働による移動支援モデル事業などに取り組みました。

2、進捗状況ですが、二つの指標のうち一つが99%であったため、評価はbといたしております。

以上で説明を終わらせていただきます。

○安浦会長 ありがとうございます。

それでは、ただいま3点連続してご説明をいただきましたけれども、これに対して委員の皆様方から、議題1, 2, 3のいずれでも結構でございますので、ご自由にご質問やご意見をいただきたいと思っています。

なお、ご意見をいただく時間には限りがありますので、委員の皆様には、要点についての簡潔なご発言をということでご協力いただきたいと思っております。ご出席の委員の皆様方に必ず一つはご発言いただきたいと思っておりますので、その点、よろしくご協力お願いいたします。

それでは、ご意見ある委員の方はいらっしゃいますか。ではどうぞ。

○委員 時間もありますので、簡潔に要点だけ意見を言わせてもらいたいと思っております。

まず、この28年度の施策評価案の概要ですね。この中で特にご意見をいただきたい施策ということで、私はこの中から三つ意見を言わせていただきます。あと、どうしてもこれ以外のところで一つだけ意見を言わせていただきたいと思っております。

まず、施策の1-3、一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくりと。これは達成状況がAということで、評価も順調ということになっています。健康に生活している割合が50.6%と増加しているということを挙げていますけれども、この指標というのは全国的な傾向だと私は思います。総務省の統計で、有訴率という「私は健康に過ごしていますよ」という人の割合は全国的に増えていて、その傾向がこの福岡市にあら



われていると思います。私は、この成果指標としては、高齢者の中で自分の力ではなかなか何ともならないというところに対してどういう施策をして、それが改善してきているのかというところを、今後、成果指標として見ていかないといけないんじゃないかなと思っています。低所得の高齢層は、高所得の方々よりも死亡率は3倍だというデータがありますし、私は、実際にこの猛暑の中で高齢者の皆さんの生活は一体どうなっているのかと、何か所かの地域包括支援センターを調べてまいりました。低所得者層では、この暑さの中、エアコンもなく過ごしていて脱水症状になったりという方々が大変増えていて、そこを管理するのが大変だとも聞いております。低所得者層が健康的に生活していけるような施策と指標が必要ではないかなと思っています。

それと、災害に強いまちづくりですね。これはこれとしてあると思いますけれども、足りないものがあると私は思います。福岡市は震災、風水害、あと原子力災害対策という三つの地域防災計画を持っていますが、原子力災害の問題でいけば、この間、議会でも質問してきましたが、いろいろな問題をはらんでいるのではないかなと、私は思っています。国の原子力災害対策指針及び福岡市地域防災計画は、屋内退避を基本としていますけれども、熊本地震では震度7が2回起きて、状況によっては屋外退避せざるを得ないと。そのときに、どのように市民が避難をしていくのかという観点とか、また、155万の市民がどのようにこの深刻な原子力災害から避難をしていくのか。こういう視点もしっかりと入れていくべきではないかなと思っていますところでは。

あと、施策の1-7ですね。これは7-5のパッケージということになっていると思いますけれども、1-7を個別に見たら、子育て満足度が中間目標値を上回っているとか、待機児童数が政令市平均よりも少ないということで達成度がBとなっていますが、待機児童数で見たらこういう状況ですが、未入所児が大変膨れ上がってきています。これは、マスコミの間でも隠れ待機児として問題になっているんですね。朝日新聞の調査でも、この隠れ待機児童、未入所児童を含めたら、福岡市は全国で10番以内に入っているということで、そういうところでもしっかりと見ていかないとだめだと思っていますところでは。

最後になりますけれども、この中には入っていませんが、施策の6-3、地域経済を支える……。

○安浦会長 ページ数をお願いいたします。

○委員 すみません、資料4の250ページです。施策の6-3ですね。これは達成状況がAということで、全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合というのが一つありますけれども、これに何の意味があるのかなと言わざるを得ません。私は中小企業振興審

議会の審議員も務めさせていただいておりますけれども、先日開催された審議会でも、大変苦境に立たされていると。後継者不足と高齢化が深刻な問題になっておりますし、そもそも福岡市の経済の中心を担っている20人以下の小規模事業者数がこの間激減していると。2009年では4万8,247で、同じ指標でいけば2012年には4万4,297に減っています。中小企業などの競争力、地域経済と書いてありますので、こういう指標をそこにつけ加えていかなければ、正しく見ていけないんじゃないかなと、私は思っています。

ほかにもまだありますけれども、時間もありますので、この施策の評価については以上4点の意見を述べさせていただきたいと思います。何かありましたら、よろしく願います。

○安浦会長 ありがとうございます。

市のほうから何かお答えになることはありますか。

○事務局（野中） それでは、本日は担当局も来ておりますので、そちらからご説明させていただきます。

1点目の施策の1－3につきまして、保健福祉局、お願いします。

○高齢社会部長 保健福祉局高齢社会部長の高木でございます。よろしくお願いいたします。

1点目のご質問の関係でございます。今、委員から頂戴いたしましたご意見の背景の部分のみを申し上げますと、約8年後、2025年——平成37年には、福岡市の高齢化率は24.8%で、おおむね4人に1人が高齢者となる状況でございます。その数は約40万人。それから、介護認定を受けていると推定している方が約10万人で、さらに申し上げますと、単身高齢者12万人という推測を立てております。こういった状況の中で、今、ご指摘があったようなさまざまな課題が出てきていると考えております。その代表的なものとして、先ほど所得のご指摘がございましたけれども、社会保障関連経費の課題ですとか、高齢者を支援していくための健康づくり、介護予防、それから、高齢者のドライバーの問題を含めて高齢者の足をどう考えていくかなど、こういったさまざまな課題があると考えております。また、ご指摘の所得の関心に焦点を当てますと、住宅の問題ですとか、介護保険の利用の問題、負担の問題などさまざまございます。このような課題に対応していくということで、高齢者の方々に元気で活躍いただくという、今回お示ししておりますアクティブエイジングの推進が大きく基本になろうかと考えてございます。ご指摘がありました低所得者に関する指標の話でございますけれども、その根幹となります健康づくり、介護予防、そして、低所得者対策といった方向から、またしかるべき

時期にこういった考え方を根本に持っていけるのか少し考えてみたいと考えてございます。

以上でございます。

○安浦会長 時間が限られておりますし、後日、まとめて文書で委員に回答いただくということですので、市のほうはここでは簡潔にお願いいたします。

○事務局（野中） 承知いたしました。

3-1に関して、市民局、お願いします。

○防災・危機管理課長 市民局防災管理部防災危機・管理課長の大峰と申します。よろしくお願いいたします。

原子力災害に対するご質問が2点あっておりますけれども、まず第1点目の大規模震災発生時における屋内退避のあり方についてお答えいたします。

福岡市の地域防災計画及び原子力災害避難計画におきましては、空間放射線量率に応じまして屋内退避や一時移転を定めております。仮に大規模地震が発生いたしまして屋内退避ができない状況になった場合におきましては、的確に最寄りの避難所のほうに避難していただくように誘導してまいりたいと考えてございます。155万人市民に対する避難につきましても、地域防災計画に基づきまして適時的確な避難が行えるよう、日ごろの訓練並びに市民の意識啓発を図ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○事務局（野中） 1-7、保育所関係についてこども未来局、お願いします。

○子育て支援部長 こども未来局子育て支援部長の宮原でございます。

待機児童関連のご質問に対してお答えさせていただきたいと思っております。

保育所等の整備につきましては、保育需要の伸びに伴いまして整備を行っているところでございますけれども、近年、働く女性の増加等に伴い、保育所の申し込み数、申し込み率が大変上昇しております。そのため、保育所の整備というのは鋭意行っているところでございますけれども、待機児童が発生しているところでございます。これは平成28年度までの指標でございますけれども、29年度につきましては、こういった状況がございますので、当初予算として過去最大の2,000人分の整備を、また、申し込み率の急激な伸びに対応して補正等でさらに500人分の整備の追加もさせていただいているところでございます。そういった状況でございますので、まずは待機児童の解消に向けて保

育所等の整備に努めているところでございます。

以上でございます。

○事務局（野中） 6-3の中小企業関連の指標について経済観光文化局、お願いします。

○（経）中小企業振興部長 経済観光文化局中小企業振興部長の今村でございます。

委員の指摘は、251ページに書いています施策の成果指標が、あまりきちんとした成果をあらわしていないのではないかとというものでございましたけれども、これは、事業者数、あるいは事業所数、あるいは従業者数での目標設定というのを考えたのですが、それが増えたか減ったかという単純な増減だけでなく、全国的なトレンドの中で福岡市がどうであるかということがわかるように、全国での中小企業事業者数の割合と、全国で増えているか減っているかというのと福岡市で増えているか減っているかというのを比べられたほうがいいのではないかとということでこのような指標にしております。この251ページの下のほうに書いていますけれども、中小企業従業者数、全国では2014年比で2.7%増に対して福岡市は8.8%増ということで、全国でも中小企業の従業者数が増える中、福岡市はそれをさらに上回るスピードで従業者数が増えているということで、中小企業がしっかりと福岡市の雇用と経済を支えているということがはっきりとうかがえる指標ではないかと考えてございます。また29年度以降に新たな施策を打っていく際の成果指標のあり方につきましては、補完指標も検討し、設定していきたいと考えてございます。

以上です。

○安浦会長 ありがとうございます。できるだけ今のように簡潔にお答えいただければと思います。

それでは、ほかの委員の方、いらっしゃいますか。

○委員 私のほうからは3点。

まず1点目です。今回、施策の評価を拝見いたしましたけれども、おおむね順調ということで、大変順調なのかなと思っているわけですが、その中でやや遅れているという施策が三つあると。それに対して今後どうされるのか、あるいはそういった部分は検討されているのか、見直しなのかを教えてくださいということが1点です。

2点目です。まち・ひと・しごと創生のところでございますが、今、中小企業の話がございましたけれども、雇用を生むということも大切なんですが、今、中小企業等は大変な人手不足の状況にあるというところでございます。そういった中で、競争力を上げ

るということになると、中小企業の継続性及び生産性を上げることが最も重要だと思っております。そういった中で、私も中小企業なわけですが、大手企業様と比較して、人材の教育ができなかったり、働く環境の整備がなかなか大手ほど進まないというところもございまして、中小企業に対してのそういった支援が何かできないかご検討いただければと思っております。

3点目です。新たな雇用の中で外国人の住みやすさ評価というところがございまして、8-8を見せていただいて、いろいろなことをご検討されているのはわかるんですが、外国人が家族を連れて住みたいまちを目指すのであれば、もう少し教育、もっと言うと、私どもの事業で言うと子育て支援、保育事業をしておりますが、保育所に外国人のお子さんがいらっしゃいますけれども、保育所には日本語しか話せない保育士しかいない中で外国人のお子様を預かるという現状がたくさんございます。そういった部分で、もうちょっとホスピタリティー、教育、それから子育て支援等の部分もご検討いただければなどと思っております。

以上でございます。

○事務局（野中） それでは、私のほうから3点まとめて簡単にご説明いたします。

まず1点目ですけれども、やや遅れている施策でございます。概要で説明いたしました4-2、ごみ処理は、事業効果があらわれるのに時間がかかるもので、現在の施策、事業で少しずつ効果を出し始めておりますので、継続していくものと考えております。

2つ目が公民館の利用率でございます。地域において公民館を活用していただけるように地域活動を増やすといった取組みもしておりますので、こちらのほうも時間がかかるものではございますが、引き続き取り組んでまいりたいものと考えております。

遅れているものの3つ目が8-7で、釜山との超広域経済圏の形成というものでございます。こちらの成果指標を福岡・釜山間の定期航路の船舶乗降人員としておりました。LCCの台頭によりましてLCC利用が増えているという状況がございます。成果指標を補完する指標の検討も必要だと思っております。釜山との関係を経済圏というところで捉えると、どのようなことが必要なのかということも、課題と考えております。

そして、大きな2点目の質問では、まち・ひと・しごとで、中小企業が実際に直面しているのは人手不足というご指摘でございました。もちろん中小企業は福岡市の経済を支える大きな担い手でございます。チャレンジする中小企業に対して、引き続き支援をまいります。

最後の外国人の住みやすさというところで、保育所などでお困りのお母さん方もいらっしゃるということでございました。ニーズがどういうところにあるのかということも把握しながら取り組んでいくものと考えております。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

それではほかに、なければ順番にお話しただこうかと思えますけれどもよろしいでしょうか。それでは、お願いします。

○委員 働く者の立場で参加をさせていただいていますので、資料3の概要の分でいきますと、スタートアップのところの累計で起業件数が伸びていて雇用が増えているのはいいんだらうなと思えますけれども、実際この95社が今も健全に経営ができているのか、その辺を市としてどうフォローしていただいているのかお聞かせをいただければというのと、関連して、目標値の定義が変更になっているということなので、新たな目標をどういうふうに立てられるのかを教えてくださいと思います。

以上です。

○事務局（野中） 経済観光文化局からお答えいたします。

○創業・立地推進部長 経済観光文化局創業・立地推進部長の中村でございます。

委員お尋ねの、事業所が増えたはいいが、その後のフォローをどうしているのかという話でございます。今のところスタートアップカフェ利用者が起業した企業の全てについて市のほうでチェック・アンド・フォローをしているわけではございませんが、例えば先ほどもご紹介させていただきましたFukuoka Growth Next、いわゆるスタートアップ施設でスタートした企業様とか、その施設に入居している企業様につきましては、入居されている方は日常的にでございますが、起業を別なところでされた方についても定期的に情報を仕入れて、何かご相談があればうちの施設でフォローする体制をとっているところでございます。

それと、成果指標のとり方でございますが、非常に波を打って数が増えたり減ったりして、これはどうしても経済センサスの国のやり方が若干変わったものですからこういう数字になっております。ただ、この指標を別のものに変えるということについては、この基本計画の中でこの指標でということを決めているルール上、今すぐには変えられないかもしれません。しかし、例えばそれを補完するようなもっと客観的に見られるような指標等も検討しながら、こういったチェックをしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

○委員 資料5のまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、ご質問というか考え方をお聞かせいただければと思います。

KPI、指標をそれぞれ定められていまして、県もこういう指標をつくっている分があるんですけども、例えば基本目標Iの(エ)の観光でいきますと、外国人の来訪者数。これは既に2016年で2019年の目標を達成していると。あるいは、基本目標Iの

(イ)の中小企業従業者に占める福岡市の割合で申しますと、おそらく計画を策定されたときには指標がまだ出ていなかったんだと思いますが、2014年で1.52%と、2019年の1.48%を既に達成をされていると。こういう指標について、既に目標は達成されていますけれども、これからどういう考えで施策に取り組んでいかれるのか、また、新たなKPIを作成する等、見直しを行われるのか、その辺をお聞きしたいというのが1点でございます。

それからもう1点、細かい話ですが、このKPI、基本目標Iの(イ)の博多港、福岡空港における貿易額でございます。初期値が4兆491億円に対して2016年が3兆7,885億円で、若干ですけども、減少しております。指標の評価が「A」になっておりますが、ほかの要因をいろいろ勘案されて指標の評価を「A」にされているのではないかなと思いますけれども、その辺の考え方がわかりましたら教えていただければと思います。

以上です。

○安浦会長 お願いします。

○事務局(野中) ありがとうございます。

指標に関する考え方でございますけれども、まず、既に達成しているものは目標としてさらにどうするかということでございますが、引き続き、増加・向上に向けて取組みを進め、目標自体をより適切にあらわすものなどについて検討、研究を進めてまいりたいと考えております。

2点目の貿易額についてでございますが、基本計画と総合戦略について同じ指標を設けておりまして、施策の評価を同じに取り扱っております。わかりにくくて申しわけございません。

○安浦会長 317ページのグラフと同じということですね。

○事務局(野中) はい、そうです。

○安浦会長 それでは、続きまして、お願いします。

○委員 2点お願いします。

1点目はわかりやすいところで、資料5のまち・ひと・しごとの資料の(ア)で、クリエイティブ関連産業事業所数が増加しておりますが、クリエイティブ関連産業事業所というのはどういう事業者さんかというのが一つです。それから、この事業所数は福岡市の全事業所数の何%ぐらいなのかというのを教えてください。

2点目、これはちょっとややこしいんですが、評価のほうですね。「やや遅れている」が3施策、「概ね順調」が31施策ですが、この「概ね順調」の判断がちょっと甘いのではないかなという気がしています。

具体的に言えば、資料4の19ページ、施策1-1、ユニバーサル都市・福岡の推進でございますね。これは、ユニバーサルデザインの概念の理解度、中間目標55%に対して現状値46.4%、取組みへの評価、中間目標45%に対して現在35.8%で、これはほとんど到達不可能な数字ではないかなという気がしています。したがって、この1-1、一丁目一番地はもう少し抜本的な政策の対応が必要かと思われまます。

それに関してもう1点。この評価の根拠として19ページ目の上のほう、進捗のところに、福岡市バリアフリー基本計画に基づいて鉄道駅の段差解消や障がい者誘導用ブロックの設備等を中間目標に対して前倒しで行ったので評価しましたよということを書かれていますが、これは全国的に言えば最低限のレベルの整備でありまして、こんなものは車椅子がようやく通れるようになっただけの話であります。ユニバーサル都市・福岡というのは、やはりトップランナーを目指すべきだと僕は考えておりまして、既にほかの先進的な行政では、一定規模以上の公共事業には利用者の参加を義務化するという制度がございます。したがって、高齢者、障がい者が一定規模以上の公共施設、公益施設、具体的に言えば空港整備等に対しては、当事者の意見をきちんと聞きながら進めているという制度がぜひ必要ではないでしょうか。

以上、大きく2点の内容でございます。

○事務局（野中） 1点目のクリエイティブ産業につきまして、経済観光文化局、お願いします。

○国際経済・コンテンツ部長 経済観光文化局国際経済・コンテンツ部長の横内でございます。

細かい数字のデータについては、今、手元にないものですから、後ほどきちんとご説明させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。



○安浦会長 定義はわかりますか。

○国際経済・コンテンツ部長 定義としては、ゲーム産業やデザイン産業ということで、コンピューターソフト、それから、映像、音楽、広告、デザイン業などから成る産業群ということで、経済産業省の定義に基づいて出しているものでございます。

○事務局（野中） 全体の評価の考え方に関するご指摘がございましたけれども、評価につきましては、成果指標はもちろんございますが、そのほか事業の進捗状況、そして、社会情勢などをあわせて総合的に判断をさせていただいているところでございます。成果指標だけを見ると厳しいというところもございますけれども、今まで取り組んでいなかったことへの取組みですとか、限られた予算の中での取組みなどを勘案しまして、総合的に判断をしているところでございます。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。それでは、続きましてお願いします。

○委員 私は初めて参加させていただいて、実は従前の議論を知らないということで、ちょっとピントがずれるかもしれませんが、お許しいただきたいと思います。

資料3の13ページ、「若者や女性が活躍するまちづくり」の施策で「概ね順調」となっているんですけども、若者率の全国との差という、達成状況がCというのがあるんですが、達成状況Cと出ているいろいろな指標の中で、私はここだけ「え？」と思ったので聞かせてください。

若者率が福岡市が一番高いのは周知の事実ですが、何でこの全国平均との差を成果指標にしたのかがわかりませんでした。これは社会動態の話で、行政が何か努力しようがあるのかなというそもそも論が見えなかったのです。これは届いていないんですけども、じゃあどうしようとされているのかという、その点を教えてください。

○事務局（新穂） 総務企画局企画課長の新穂と申します。

若者率につきましては、九州の拠点都市としての役割を果たしていくということで、チャレンジする若者が多く集まって活躍するまちづくりを目指している福岡の状況を把握するための指標として、こういった目標を一つ掲げているところでございます。

以上でございます。

○委員 全国は減っても、福岡は減らないということがいいんだということなんでしょう

けれども、ご努力のしようがあるのかどうか。ほかの指標は全部、役所が頑張っとうしていこうというのがわかるんですけども、ここだけは人口の動態の話なので、どうなのかなと。これからできる努力が見えないので、ちょっと考えられたほうがいいかなと思いました。このぐらいにしておきます。

○安浦会長 回答はまた文書のほうで詳しくお願いします。

それでは、続きましてお願いします。

○委員 個別のお話と全体的なお話と、それぞれをさせていただきたいと思います。

まず、資料3の評価の概要ということで、3ページ、4ページですね。施策1-3ということで、健康づくりのお話をされて「順調」という評価です。これは数字だけ見ると順調に見えるんですけども、例えばこの太いほうの資料4の33ページに、それぞれの取組みの進捗状況と課題の今後の方向性があります。健康に生活している高齢者の割合が多いというのは、今まで健康に留意せずに、年をとっていきなり健康になるということは当然あり得ないと思っていますから、それまでの取組みというのが非常に重要であると思っています。例えば33ページの真ん中に特定健診受診率向上に向けた取組みとありますが、ここの数字はおそらく市のほうも認識されていると思いますけれども、極めて低い状況だと思っています。また後ほどお話ししますが、具体的にそういう指標をそれぞれ用いて、今後、その指標がどう動いていくのかということをご示しいただきたいなと思っています。

それから、資料3に戻って、5ページ、6ページの施策3-1の災害に強いまちづくりについては、6ページの避難所運営体制の強化とあわせて、議会でも議論されているのは、今、計画されている避難行動、それから、どこの避難所に何人収容できて、その食べ物や飲み物とかがほんとうに現実に沿った内容になっているかということです。そのあたりを私は明確にお示しいただいた記憶がないので、そこも評価していただいて、ぜひお示ししてもらいたいなと思っています。

それから、7ページ、8ページの施策4-2の循環型システムの構築について。これは、8ページの下にある資源化施設の整備と食品廃棄物のリデュース、つまり事業系ごみですね。この事業系ごみをどうやって減らしていくのか、再利用していくのが肝だと思っていますので、ここがどういう目標を立ててどれだけ進んでいくのかをぜひお示しいただきたいと思います。今後でいいです。

それから、次のページの9ページ、10ページの施策5-3ですけども、ここは観光情報サイト「よかなび」のアクセス数が減っていますよね。太いほうを見てみると、これはリニューアルしたのでPV数では測れなくなったということではありますけれども、

どうやって代わりの指標をつくるんですかということがありますので、その指標もお示しをいただきたいと。

それから、11ページ、12ページの施策7-1ですけれども、スタートアップです。これは先ほどもありましたが、11ページの右の表ですね。スタートアップカフェ利用者の起業件数が95社だと。ここはいいと思うんですが、じゃあ、ここで雇用がどれだけ広がって、その経済効果はどうか、それが重要なお話だと思っていますので、ここもぜひ気にしていただきたいと思います。

個別の最後ですが、13ページ、14ページの施策7-5です。チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり。ここについては、15ページに細かい施策を書いていますけれども、とりわけ「子ども、若者の健全育成の取組み」、15ページの一番下ですが、ここだけ個別の話ですが、ミニふくおかというのがあります。会場の九電体育館が、今後、閉館になるということで事業見直しされると思うんですけれども、こういう事業は、一部の児童生徒ではなく、全ての児童生徒が体験できる取組みというのが絶対に必要だと思っています。今、ちょうどいい時期ですから、その部分を含めてぜひご検討いただきたいと思っています。

最後に、資料4の33ページをお示ししましたけれども、大きな指標があって、それにひもづく取組みが、例えば33ページで言うと、施策1-3を構成しているのは、自主的かつ継続的な健康づくりの普及推進、特定健診受診率、自殺予防の取組みなどで、それぞれがひもづいていると思うんですよ。全ての残りの施策も全部そういうふうになっています。そのときに、施策全体が、例えば「◎：順調」だ、「○：概ね順調」だとかというのは、その下の個別の取組みがどうかという評価ができないと、本質的には全体の評価はできないと思っていますので、そこがわかるように——この一段下、全部書いていますよね、課題と今後の方向性も含めて。だから、ここもそれぞれ定量的な指標が必要であり、それに対する評価が必要だと思っていますので、ここは今後さらなる充実を求めたいと思いますので、ここだけぜひ答弁いただければと思います。

○事務局（野中） 指標についてでございますけれども、大きな成果指標、そして、大事業、中事業、小事業ございますが、各事業レベルでも、アウトプットなどに関する指標を設けております。先ほどの1-3で言えば、36ページでございますけれども、重点事業に関して掲載しております。こちらは事業ごとに活動の指標を設けて検証しているところでございます。ただ、全ての事業の合計がその施策の評価というわけにもいかないと思っております。施策全体としての方向性、そして、それを構成する事業、その事業が施策の効果にどれほど貢献しているかは、もちろん個別の事業を検討いたしまして、どう改善していくのか、見直していくのかというのは、検証を行っているところでござ

います。

あとのところは、お答えを後ほど文書などでまとめていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員 会長、一言だけいいですか。

○安浦会長 はい。

○委員 一言だけすみません。

ありがとうございます。よく見たら36ページ以降に細かいのが書いてあるんですけども、これは最小単位だと思っています。だから、最上位の評価が、今、この資料に示されていて、その一段下というのは、私が申し上げた33から35ページの部分だと思うんですよ。だから、ここの部分で評価ができるような仕組みというのをぜひ取り入れていただいて、私たちにお示しをいただきたいということだけ申し上げておきます。

○安浦会長 個別のものは文書で返されていいですか。

○委員 構いません。私は求めません。

○安浦会長 わかりました。

それでは、続いてお願いいたします。

○委員 28年度の施策の評価を伺いまして、福岡市は順調にやってきているんだなと感心しておりました。それで、私の専門の部門に関しましてちょっと確認をして、これからの施策に生かしていただければと思います。

人口動態のところ、福岡市は若者がすごく増えております。その中で、施策の7-5に「チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり」というところがありまして、子育て環境の満足度がすごく上がったり、企業における女性の管理職の比率もかなり上がって、女性が働きやすい社会になりつつあると感じるんですけども、少し考えていただかなければいけないのが、その次の15ページにある「若者の健全な育成の取組み」で子どものほうに重点が置かれていることです。若者の健全な育成というのは、これから子育てをするとか、家族をつくっていかねばならない思春期や成熟期に向けた若者の育成などに関しての施策が抜けているのではないかと感じました。

それから、女性が社会に進出していきますと、どうしても保育所だとかがだんだん足

りなくなってくる、これは福岡県だけではないと思います。それでイタチごっこになっているのはどこの県でもそうなんですけれども、女性だけが頑張るということはできません。パートナーである男性の協力がなければ、家庭は整いませんし、子どもも健全には育ちませんので、そちらにも力を入れていただければなと思っております。

60ページの施策1-7のところがよくわからないんですが、59ページでは、子育ての環境の満足度はすごく高いんですけれども、「子どもの健やかな育ち」、それから「安心して生み育てられる社会づくり」の満足度がすごく低くなっています。その説明をお願いいたします。

以上です。

○事務局（野中） 若者の健全育成について、こども未来局、お願いします。

○こども部長 こども未来局こども部長の金子でございます。

子どもの健全育成の件でご質問をいただきました。ここの事業名では一つしか掲げておりませんが、施策体系としては四つの大きな柱がございます。項目的にご紹介いたしますと、まず、「子ども・若者の健全育成の取組み」の大きな柱としまして、子どもの遊び場や活動の場をつくっていきましょうという取組みをやっております。また、子ども・若者の自己形成の支援や、子ども・若者の社会的自立に向けた取組みもやっております。あわせて、子ども・若者の安全を守る取組みと非行防止、こういった総合的に健やかな成長を促していく取組みをこども未来局では進めているところでございます。

以上でございます。

○事務局（野中） 次に男女共同参画につきまして、市民局、お願いします。

○男女共同参画部長 市民局男女共同参画部長の高本でございます。

今おっしゃられました女性の社会進出に伴い男性の協力が必要だということでございますけれども、私どものほうで企業に対する啓発とかをやっておりますし、必要な啓発につきましては今後とも進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○こども部長 60ページの「安心して生み育てられる社会づくり」の中で、満足度が低いのではないかというお話がございました。一方で、もう1点の指標についてはまだ高くて、相反するのではないかというお尋ねだったんですけれども、この60ページの表につ

きましては、子どもさんがいない世帯がいらっしゃるにしまして、それが「どちらでもない」という形でアンケートに答えていらっしゃることも考えられます。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。それでは、続いてお願いします。

○委員 私も参加させていただくのが今回が初めてですが、特に意見をいただきたいということでこの資料がつくられていると思います。施策の評価の中で、「やや遅れている」というのが、施策4-2の「循環型社会のシステムの構築」で、ページで言うと7ページ、8ページになってくると思います。福岡市も人口がどんどん増えてきて、それにつれてごみが増えていくのが普通なのかなと単純に思うんですけども、実際、この資料を見ていると、市民1人当たりのごみの処理量が減ってきていると。全体的に世の中のごみが減ってきていて、それは包装紙の改善であったり、いろいろな要因があるとは思いますが、福岡というのは夜間収集をしていて、観光客、市外から来る人たちは「福岡はとてもきれいだ」というイメージを持っている中で、施策の評価が「やや遅れている」というのは正直残念だなと思います。

きれいなまちというのは、ほかに誇るべき施策ですので、リユース・リサイクルなどの要するに3Rですね、そういったものをどんどん進めていただければと。8ページにもありますけれども、三つの課題があります。課題も結局、啓発をやっていくというのが主になってくると思うので、これも正直、抜本的な改革というか、広報・啓発だけではなく、きれいなまちを印象づけるためにも、いろいろな意味で取組みを広げていただきたいなと思いました。

個別のいろいろな取組みについて、また議会のほうでも意見を言わせていただきたいなと思います。

以上です。

○安浦会長 特に回答はよろしいですかね。

○委員 はい。

○安浦会長 それでは、続いてお願いします。

○委員 すみません、もうご意見が出ている部分もあると思いますし、お時間の関係もあつたりしますので、ご回答いただかなくても結構な部分もありますけれども、4点ほど

お願いします。

先ほど出ていましたけれども、就業機会の満足度が上がっているということは、需給関係で言えば企業側が苦しんでいるということもあろうかと思えます。商工会議所でも、実は会員企業の経営上の課題って、売り上げとか利益が確保できないことよりも、人が採れないというのが、2年間で一番の経営課題に挙がっています。

企業側がどういった求人をやっているのかということになってくるんですけども、調査の内容を見ていくと、結局、中小企業の場合、採用に充てていく人材がそもそも確保できない、それから資金がないといったところが課題になっていて、実質的にはハローワークに求人を出すといった待ちの求人ですね、それが実態になっているところもありますので、ぜひ、そういったところも含めてご支援をお願いしたいと思います。

それから、インバウンドのお話があって、取組みは非常にいいんじゃないかなと思っています。博多織、博多人形等々が入っていますけれども、この後、2019年、2020年と大型イベントも入ってきますので、ぜひ伝統芸能や祭りの分野にも目を向けていただければと思っています。

それから、既に出ていましたけれども、若年人口のところって、全国との比較というのはすごく私も違和感があるんです。ただ、これは短期的に見れば、最終が2020年度目標ということになっていますので、出生率を上げる・上げないというよりも、ここ数年先の話であれば、今、何歳のところに何人いるというのは全部わかっているわけですし、全国の統計も大体、指標的に予測ができています中で、プラス5ポイントを福岡市が目指すということになれば、この15歳未満のところが増えている中で、上のところの15から29をどう増やすのかというのは、おそらく流入を増やして流出を抑えるという施策なのかなという認識を持っているんですが、そこが合っているかどうか、ここはご回答をお願いします。

それからもう一つは、I o Tの指標の中で、先ほど登録企業数が533%と非常に高く伸びていましたけれども、ここが伸びている要因がもしあれば、この点を。

以上2点だけご回答をお願いします。

○事務局（野中） 若者率につきましては、委員おっしゃるとおり、流出と流入の関係でございませう。東京圏には、福岡市から流出しているという状況でございませうが、九州のほうから流入が多いという状況で、若者率が全国比で高いという状況でございませう。施策に関しては、東京圏への流出を抑えていくというところで、雇用を増やす施策を行っております。

I o Tに関しまして、経済観光文化局、お願いします。

○創業・立地推進部長 経済観光文化局、創業・立地推進部長の中村でございます。

もう一つのご質問の、IoTのネットワーク参画企業等が533%という、30の目標に対して160にどうしてなったのかということでございます。この目標を立てる時点では、関連の団体や企業様の感触で、おおむね30いけばいいなということで目標を立てさせていただきました。ところが、実際これを募ってみますと、思いがけず160という企業数で、目標の立て方が甘かったと言われればそれまでかもしれませんが、まさに想定以上のご関心をお持ちいただいたというのが実際のところでございます。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

今の2点でよろしいですか。

○委員 はい。

○安浦会長 それでは、続いてお願いします。

○委員 全国的に見ても結構うらやましがられている本市でございますので、ちょっと蛇足になりますけれども、ご配慮いただければという観点でお願いいたします。

ちょっと話はかぶりますけれども、評価（案）概要の4ページで、健康寿命が全国平均より少し低いというのが、ちょっと意外な気がしました。何でかといいますと、我々の関心から言いますと、都市ブランドといいますか、健康寿命が長いところはいいところなんだろうと。多分、食生活とか食材もいいんだろうと。直に福岡市内は周りに隣接して、非常に結構なところだと、そういうイメージを売り出すのが我々の仕事の一つでございますので、意外に思いました。

それで、仮説があれば勉強のためにお聞きしたいんですけども、この原因というのは、急激な人口増の結果なのか、あるいは逆に、救急医療とか延命医療の施策が充実しているということも考えられるなど。何か仮説はありますか。

○事務局（野中） 保健福祉局、お願いします。

○健康医療部長 保健福祉局、健康医療部長の大島でございます。

この健康寿命は平成22年でそれ以降出ていなくて、かなり時間的な差があるため、はっきりしたことはご説明ができません。私どもも、いろいろやっていて、特に女性が悪いというのを見させていただいたときに、そういう要介護状態になる原因として、ロコ



モティブシンドローム、男性は生活習慣病が多いんですけれども、そういうところが多いです。特に、昔痩せていらっしやって太ったら急に膝とか腰が悪くなってという、典型的にはそこでかなり要介護状態になるという方がいらっしやいますので、ロコモティブシンドローム対策などを頑張ろうというふうに私どもはしております。あと、女性の飲酒量が全国に比べて少し多いとか、そういうものは幾らかあるんですけれども、はっきりしたことはわからないというのが実際のところでございます。

以上です。

○委員 ありがとうございます。まあ、なかなか一発では特定できないというのが普通の状態でございますので。ひとつよろしくお願いします。

もう二つ、三つ、ほんとうにお願いというか、蛇足の蛇足みたいな話なんですけれども、我々がほかの地域に転勤に行ったり、出張で滞在したりしていると、ここは非常にイメージがいいなと。それは何をもって感じるかという、電車の乗り方、自転車のマナーが非常にいい、そういうところに老若男女の文化的センスの厚みを感じて、非常にいいところだなと感じるわけです。そして帰ってからもそれをまた吹聴するわけです、「あそこはすごくいいね」と。市役所の人に会っても、「こんなことがあったけど、一体全体どういう教育をしているんだ」というようなご質問をしたりしています。

ということで、福岡市がどうのこうのというわけではもちろんないんですけれども、そういう乗車マナーとかも、観光客とか転勤で住みたいなという人にとってみると、最初にイメージがついてしまうところです。しかも、乗車マナーの向上というのはただでございます、金がかかりません。ということで逆に怖いところもあるので、今後のキャンペーンなどをまたお願いしたいなと思っております。

それから、スタートアップの拠点なんですけれども、全国的に見ても、政府の資料の中にも紹介されていたり、かつ、由緒ある建物の中でインキュベートされていて、非常に支援を受けているということで、非常に評判がいいわけです。全国的にも、「これはうらやましいね」という事例でよく話されるところでございます。

ただ、全体的な新規事業種数の中身を見ると、やっぱりIT系やクリエイティブ系ばかりじゃなく、生活支援系や飲食店が多いわけでございます。ということで、この拠点の整備という趣旨は違うんでしょうけれども、情報拠点というのはシンボリックなところにあったほうがいいねと。ただ、立地というか都市の多様性、魅力というものもありますので、商店街の空き店舗とか、それから福岡市といえども中山間地域はあるわけですから、そういうところへの目配りといいますかね、小学校の跡地とか、そういうところへもご配慮いただければと思います。

以上、蛇足でした。

○安浦会長 何かお答えされることはありますか。

○事務局（野中） ご意見ありがとうございます。今後の取組みの参考とさせていただきます。

○安浦会長 それでは、続いてお願いします。

○委員 私も今回初めてこの会議に出席させていただいて、ほんとうにびっくりしながら皆様のご意見を聞いているところですので、質問というよりも、取り組んでいる自治協議会のお話を少しさせていただけたらと思っております。

先ほどから高齢化社会になるということで、さまざまところで校区自治協も支え合いながら、住みなれたところで自分らしく過ごしていただけるというところで取組みをしております。

地域デビュー事業として、市のほうから3年前に10万円と5万円・5万円を3年間いただきました。それで私たちの校区は15町内ありますけれども、13町内が活動しました。その中で、転勤で来られる方たちとかがたくさんおられるところで地域デビュー事業をやりました。参加者もほとんど3年間、3回しました。3年たって、「次はありません」ということで切られておりますね。なぜ5万円だったのが、突然なくなったのでしょうか。

それと、高齢化社会に向けてさまざまなことをやっておりますし、保健福祉のほうもそうですが、今、地域包括ケアシステムのほうも頑張っておりますけれども、こういうところに地域でその人らしく暮らしていける事業をやるには、町内会とか自治協の予算だけでは足りません。やはり、そこに2万円でも1万円でも市のほうの予算がつくんですよということがあって、そして足りないところは皆さん頑張らしましょう、支え合いましょうという分野だと思うんです。これだけ大きな福岡市という発展するところで、地域になぜそういう予算ができないのだろうかという疑問を今持ちました。

それともう一つ、公民館の利用者が50%足らずというのを見てびっくりしているんです。私たちの校区ではそれは考えられなくて、もっとたくさんおりますが。でも、そういうところでは公民館が月に1回、休日に休むことになっているそうですね。現在行われておりますが、居場所のない方たちがたくさんいらっしゃるんです。公民館を全部閉めるんじゃないでなくて、誰かに鍵を預けてでも公民館の利用はできるというような形はとれないものなんでしょうか。以上のことを今のところお尋ねします。

私たちは支え合いながらやっております。私たちの校区にも公民館は一つしかもちろ

んありませんが、私も自分のアパートを改築しまして、今、高齢者の皆さんのおしゃべりどころをつくって現在活動しております。やはり、誰かが何かをやらないと前には進んでいけないと思います。ささやかな活動ですけれども、そういうところから一步一步進んでいきたいと思っていますので、できれば地域デビュー事業の予算を復活していただけるようなことはできないものなのかということで、お願いしたいと思います。

以上です。

○事務局（野中） それでは、市民局、お願いします。

○コミュニティ推進部長 市民局コミュニティ推進部長の竹中といいます。よろしくお願  
いします。

地域デビュー応援事業というのは、町内会・自治会の担い手、参加者が少ないということで、お金を出して「どうぞいろんな事業をやってください」という事業です。全く新しい事業を行われる場合は、おっしゃるとおり、3年間で1年目10万円、2年・3年目が5万円という形でやっております。今のところ予算の枠もありますし、町内会・自治会の数が市内で2千3百ぐらいになりますので、新しい事業を3年間で、いろいろなところでやっていただきたいと。なお、既に行われている事業を見直したりリニューアル事業ということで行われる場合は、3年間・毎年5万円でやっておりますので、どうぞその辺をご理解いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○委員 ああ、そうですか。はい、ありがとうございます。

○安浦会長 あと、公民館のほうは何かございますか。

○コミュニティ推進部長 先ほど公民館の利用率の話もありました。この中で「やや遅れている」と表示されているものの一つですけれども、確かに利用率がなかなか増えていないところがあります。ただ、地域差もございまして、今おっしゃられたように、非常に利用率が高いところもありますし、低いところもあります。それで、今進めているのは、いろいろな事業を、例えば学生と一緒に公民館の講座を考える事業とか、そうやって若い人たちもどんどん入っていただくなど、幾つかそうやって利用率を高めるための事業を進めておりますので、その辺もよろしくお願いたします。

○委員 ありがとうございます。

○安浦会長 あとお休みの話とかもありましたけれども、その辺は文書でまた回答してください。

それでは、続きましてお願いします。

○委員 質問一つと意見を言わせていただきたいと思います。

質問というよりも確認なんですけれども、この中に入っているかもしれないんですが、福岡市の人口の将来推計ですね。何年にピークで何人になって、そのときの若者率と高齢化率の推計があれば教えていただきたいなというのが一つです。

それから意見なんですけれども、私たちは日ごろから議会で福岡市の財政事情が厳しいということを常々お聞きしておりまして、その中で課題というかニーズは多様化しているという、ほんとうに大変な時代だと思っています。そういう中でこの資料を見ますと、よく頑張っているんだらうなど、まずは敬意を表したいなと思っています。

ただ、現場をいろいろ見てみますと、例えば環境問題についてはまだまだ遅れているという評価でございまして、これもいつも私は申し上げているんですが、環境局にもほんとうに一生懸命、ごみの問題に取り組んでいただいております。ただ、福岡市の中だけで言えば、環境局は旗振り役なので、全庁的にどうやってごみの問題に取り組んでいくかという視点、それから、例えば観光とかインバウンドの負の課題というか、ごみの問題にも、どういうふうに全庁として取り組んでいくか、そういう視点は非常に大事だろうと思っています。最近の異常な暑さとか豪雨被害とかを考えたら、環境問題はすごく大切だなと改めて実感しております、そういう視点をぜひ持っていただきたいなと思っています。

それから、先ほどの委員からのご意見にちょっと重なるかもしれませんが、地域をこれからどうやって支えていくかという問題なんです、今、地域包括ケアとか、それから介護予防の総合支援事業であるとかに、さまざま地域で取り組んでいただいておりますけれども、社会保障だけとかいう縦割りの取組みではなくて、高齢者も障がい者も子育ても、どうやって一体的に地域を支えていくか、また行政が「こうしましょう、ああしましょう」と言うだけじゃなくて、地域がほんとうに主体的に「こうしよう、ああしよう」という、そういう地域の人材づくりとか、社会資源の発掘とか、そういったことをどう進めていくかということも非常に大切な視点だろうなと思っています、ぜひこういう視点でも取り組んでいただきたいし、議論もしていきたいなと思っています。

それからもう一つ、雇用のマッチングといいますか、事業主からも人手不足だという話も聞きますし、若い人たちからも「いい仕事がない」という話を聞くんですね。仕事

はいっぱいあるのかなと思うんですけども、その辺のマッチングがなかなか難しいんだろうと思っています。特に地方都市の地方創生ということで今取り組んでいただいているんですけども、ただ、地方だけじゃなくて東京もそうなんです。東京も景気がいいのかと思ったら、実はものすごく失業者がたくさんいたり、人手不足が深刻だったりとか、そういう課題を行くたびに実感して帰ってまいります。そういう意味ではほんとうに、地域経済をどう活性化していくか、その上で若い人たちの仕事、就職とか雇用のあり方をどうするかという視点も持って取り組んでいただかないと、なかなか解決していかないのかなと思っていますので、ぜひ知恵を出して頑張っていただきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします。

以上です。

○安浦会長 では、最初の人口の件について。

○事務局（野中） 人口の件ですが、2035年（平成47年）ごろに160万余りでピークになると見込んでおります。そのときの高齢化率は、65歳以上で28%でございます。そして若者率は、今、手元に詳しい数字がございませんが、15歳未満は11%と推計をしているところでございます。

あと、いただいた環境の問題、地域の問題、雇用の課題などにつきましては、ご意見として承らせていただきます。ありがとうございます。

○安浦会長 人口の話は、関連する資料を回答の中に入れていただきたいと思います。

○事務局（野中） はい。

○安浦会長 それでは、続いてお願いします。

○委員 私は日ごろ福岡市さんのいろいろな委員会とかにも参加させていただいておりまして、評価なんておこがましく申し上げる立場じゃないかもしれないんですけども、ほかの自治体さんでなるほどと思ったような取組みというのを、今日のテーマで幾つか感じたところがありますので、それを申し上げたいと思います。

一つは、災害のところですね。我々金融機関では企業さん向けに、BCP（災害事業継続計画）ですぐれた取組みをされている会社には、全体計画をサーベイさせてもらって、「少しご融資金額をお安くします」みたいな取組みをさせていただいております。その中で一つあるのは、減災ということで起こらなくするというのは確かに最初のアプ

ローチだと思うんですけども、災害とか事故は起こってしまうものですので、起こった後、早く立ち直ることが非常に大事だと思っています。なので、先ごろ道路の陥没事故とかありましたけれども、ああいうふうにスピーディーに立ち直ることができれば、むしろ「福岡市ってすごいな」というプラスの評価をいただけるということかと思えます。そういう意味では、地域全体というスコープが必要だと思っていて、もちろん市民生活が早く立ち直るといのは重要なことなんですけれども、生活に加えて地域経済も立ち直らなければいけないなと思っています。市民生活プラス企業も被災するということがありますので、そこが早く立ち直るみたいな視点が、災害に強いまちづくりというところにはあっていいんじゃないかと思えます。

確かに平時は、特定の企業さんを優遇してみたいなことは市の立場としては難しいのかもしれませんが、非常時には限られたリソースと時間の中で優先劣後をつけてやらないと大変なことになるということがありますので、道路をどこからやるとか、水道をどこから復旧するとか、あと電力とかガスは別の企業さんをお願いしないといけないと思うんですけども、お願いするにしても「どこからやってください」と依頼しに行くみたいなところを、BCPの中で入れていくのが大事なんじゃないかなと思います。たしか京都府さんとかは、企業向けにも、どういう支援、復旧対策をするみたいなアプローチをやられていて、非常に参考になっているということでございます。

それから最後、二つ目ですけども、いろいろな成果指標のところ、もう各委員の皆様からご意見が出ていると思うんですけども、確かに当初設定したものと、環境の変化とか経済情勢の変化とかで、今となつてはこの指標で大丈夫かなと。確かにごみとかは多分、人口もこれから少しずつ増えていくでしょうし、おそらくあれを見ても達成不可能なんじゃないかなという気もしています。達成不可能な目標を設定しても、実際の市役所の方とか施策を立案する方とかはどうやればいいのかというのがあると思います。あとは定義が見直されたというのも、定義の違うものを同じグラフ上に載せてもあまり意味はないかもしれませんので、何か一度、こういう前提条件とかが見直されたものがあれば、指標やキー・パフォーマンス・インデックスの中身を見直してもいいのではと思っています。

あと、他地域との競争みたいなのところもあると思います。スタートアップ事業ですと、ほかの地域でも「自分の都市がスタートアップに一番向いています」みたいなのはいろいろおっしゃっていますので、ほかの地域と比べてほんとうに福岡市さんってアウトパフォームをしているのかという視点は大事だと思います。

インバウンドも同様ですね。進んだゴールデンルートと言われているような地域では、インバウンドの目標数値としてはリピート率ですね、1回だけじゃなくて何回も来てくれるというのがほんとうに魅力のある観光地だと思いますし、あとは口コミ率とい

うので、友人とか家族とかに「福岡市はいいよ」というようなことをほんとうに言っているかということですね。そういうリピートとか口コミ率というのがインバウンドでは一番先進的な指標のようですので、そういうものをK P Iに入れてみることを検討していただいてもいいのかなと思います。

以上ご提案ですので、特にご意見を頂戴したいとは思っておりません。以上です。

○安浦会長 ありがとうございます。

それでは、続いてお願いします。

○委員 最後ですので、時間を見るとほとんどオーバーしそうなので、端的に申しますね。

今まででいろいろな委員の方からのご意見が出尽くした感じがします。それだけ聞いていると、何か「福岡って住みにくいのかな」みたいに感じてしまったんですけども、実は午前中に、川崎市出身の30代の第3次産業にお勤めのご夫婦の方とお話する機会がありました。その方は、「福岡っていいですよ、住みやすいですよ。今、子どもが3人いるんだけど、川崎だったら3人まではつくれませんでした」と。いろいろなデータで福岡は住みやすいというのは事実なんだなと。そして発展し続ける福岡市だからこそ、今までいろいろな方のご意見があったような課題が出てきているのかなというのの一つ思います。

その中で「3Rの推進」の、雑紙の回収に重点を置いた広報啓発が今後の課題だと書いてあります。確かに私も日ごろ見ていて、軒先回収とかいって、新聞紙とか雑誌とか、「第何月曜日に出してください」とかあるんだけど、A4の読み終わった要らない資料などは燃えるごみで出しがちなんですよ。こんなものが非常にもったいない。例えばこの中の表は半分要るからといって切って、残りはごみ箱にぽんと捨てる傾向があるんですけども、業者さんに聞くと、その紙ももったいないらしいんですね。ですから、広報啓発もでしょうが、雑紙の回収の方法ですね、地域で取り組めるような簡単な方法、手法を何か考えられないのかなというのが一つ。今後の課題だと書いてあるので、当然考えていただけると思うんですが。

あと1点だけ。ほかにもいろいろあるんですが、時間がないのでこれだけ。ちょっと希望ですが、14ページの施策1-8の成果指標と補完指標、いわゆる学校の教育活動に対する満足度で、市民対象と同じ表現で保護者対象で、保護者のほうは57.8%と、6割近く満足しているんですね。それで市民のほうは35%が中間目標で、現状値が26%だと。ものすごい乖離があるじゃないですか。これは学校の教育活動に対する満足度と同じ表現なんだけれども、保護者と市民で聞き方が違うのかなと思ったりもします。お答えは文書でも何でも構いませんけれども、どういう問い方をしたの回答なのかを知りた

いなと。これだけだとざっくりし過ぎているので、こういうものをもう少し教えていただければと思っています。これはもうお答えは要りませんので。

ありがとうございました。

○安浦会長 ありがとうございました。

今のお二方のご意見につきましては、書面のほうに、もう福岡でこういう取組みをやっていますというようなことがあれば、書き込んでいただければと思います。

それでは最後になりますが、小川副会長のほうからコメントをお願いします。

○小川副会長 それでは、個々の問題については皆さんからもう意見が出ていますので、全体として、この福岡市の計画が狙っている都市の成長と生活の質の向上との好循環という点から見た課題について少しコメントさせていただきます。

福岡市はもはや、福岡市に住民登録をしている住民だけのまちではなくなっているという現実があります。そして、都市の成長がますます高まっていけば、ますますこの問題は大きくなっていくと思います。先ほど、ごみの問題でもその点の一つの課題が提起されておりましたけれども、それ以外にも、成長する都市が住民生活にとって非常に大きな課題を提起しているという例が、サンフランシスコやシアトルで顕著になっております。それは、地価が高くなり過ぎて、もともとそこに住んでいた人たちが市内には住めなくなるという現象です。こういった都市の成長が住民の生活の質を悪化させるという問題を危機意識として持ちながらコントロールしていくという姿勢が要るのではないかと思います。

若者の問題につきましても、取っかえ引っかえ若者がどんどん入ってくればいいという時代はもう過ぎたということが、今回の課題としても提起されていて、それは指標として明らかになっていることもあります。これから先、福岡にどういう人たちが住むかだけじゃなくて、来るのか、あるいは活動するのか、住民登録をせずにそこで活動し続けるのか、こういう問題について、どのように福岡市として迎えて、そこにコントロールを加えられるような仕組みを考えていくのかというのが、一つの宿題になってきているのではないかとこのことだけをコメントさせていただきます。

○安浦会長 どうもありがとうございました。

予定の時間を過ぎておりますので、今日の審議はこれくらいにしたいと思いますが、最後に少し、皆様のご意見を大まかに、この審議会のあり方という視点からまとめさせていただきたいと思います。

一つは、指標の妥当性が問われているものがいろいろあるというのがポイントだと思



います。それは指標自身の性質もありますけれども、社会環境が変化してきて、当初、4年半前、実際に審議した5年前と状況が変わっている、そこをちゃんと捉えて、これは残り5年あるわけですから、それをちゃんと反映させるための指標を新たに考えるということを、付加的な補完指標でもいいですけれども、やはり市としては考えていたかないと、この委員会で何をやっているのかがわからなくなってくると思います。

それから、評価自身につきましても、何人かの委員から、その評価自身が甘いんじゃないかと思われるものもあるし、厳しすぎるんじゃないかというものもあるんだと。さらには、事業ごとにいろいろな項目がある中で、それをちゃんと積み上げたトータルの評価として説明ができる、そういう説明責任を果たせるような最終評価に各大項目がなっているのかと。その辺のやり方についてももう一度ご検討いただきたいと思います。

それから、人口動態なんかも含めて、基本的なデータ集がこの机の上にはないんですね。先ほどの人口動態、予測等も含め、全てこの計画にのっとったグラフや資料ばかりで、一番ベーシックな、今どういう人口層が何人いて、どうなっているのか——毎年、福岡市は大体人口の10%が入れかわるんですね——福岡市はそういう市であって、先を読むというのはなかなか難しいんです、同じ人がいるという保証はないまちですから。できれば、そういうことを想定した議論ができるベーシックな資料を、委員の皆さんに提示できるものは提示していただきたいと思います。来年もこの委員のメンバーでやらせていただきますけれども、ここで審議することが次の福岡市をよくするために働く、そのための審議会にしたいと思いますので、ぜひその辺、市のほうでご検討いただければと思います。

司会の不手際で少し時間が過ぎましたけれども、委員の皆様方から非常に多様な視点でのご意見をいただきました。ありがとうございます。事務局のほうで、今日いただきました意見と、それに対して回答できるものについては回答をつくって、委員の皆様方に送っていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして本日の議題については終了とさせていただきます。  
進行を事務局にお返しします。

## 5 閉会

○事務局（鈴木） 安浦会長、ありがとうございました。

会長からも言っていただきましたとおり、本日いただきましたご意見につきましては、対応の考え方等をまとめ、施策評価の成案とあわせまして、後日、皆様にお送りさせていただきます。

今日の議事は以上でございます。

それでは、閉会に当たり、総務企画局長の中村より皆様にご挨拶を申し上げます。

○事務局（中村局長） 総務企画局長を仰せつかっております中村でございます。

本日は予定時間の2時間を上回ります熱心なご議論を頂戴しまして、心からお礼を申し上げます。また、会長、副会長をはじめとした委員の皆様、これだけ多くの資料を事前に送らせていただきましてお目通しいただき、今日それぞれの委員の思い、見識、お立場から、貴重な意見をいずれも頂戴したと思っております。

最後に会長のほうから総括をしていただきましたように、議論を聞かせていただいて、まず1点目のご指摘である指標の妥当性、それから評価の方法。これはまさに、どういった事象をどの角度から見てどう評価するのか、どこまで納得いただける客観性を持てるのか、いろいろ多様な意味を持った私どもへの投げかけだと思っております。それとデータ集を常備すること、これは大変申しわけなく思っております。当然のことだと思っております。

いずれにいたしましても、これも会長からご指摘いただきましたとおり、今日の議論がよりよい福岡市をつくる、そういった思いの中で私どもは仕事をさせていただいております。立ちどまることなく、方々に目配りをして、皆様の思いとともに、新しい、よい福岡市をつくっていききたいと思っております。本日のご議論ほんとうにありがとうございました。

○事務局（鈴木） それでは、以上をもちまして総合計画審議会を閉会いたします。

それで、最初に申しました資料のお持ち帰りの話を、せっかくごみ減量の話も出ましたので。皆様の机に、手前と奥とあると思います。お持ち帰りいただく場合はお持ち帰りいただいていいんですけども、郵送を希望される場合はテーブルの手前のほうに置いていただく、もしくは郵送しても家で捨ててしまうかもしれないという資料は、先のテーブルに置いていただくと我々でリサイクルさせていただきますので、そういう形で。もしわからないことがあれば、今後ろに係員が立っておりますので、お問い合わせいただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

閉 会